

ACG033-14

会場:201B

時間:5月25日 17:45-18:00

アラスカ黒トウヒ林の火災時に燃えたコケの面積のリモートセンシング Remote sensing of burnt moss fractional areas during an Alaskan spruce forest fire

串田 圭司^{1*}, 露崎史朗², 福田正己³

Keiji Kushida^{1*}, Shiro Tsuyuzaki², Masami Fukuda³

¹ 富山大学極東地域研究センター, ² 北海道大学大学院地球環境科学研究院, ³ アラスカ大学国際北極圏研究センター

¹University of Toyama, ²Hokkaido University, ³Alaska University

アラスカ黒トウヒ林の火災時に燃えたコケの面積率を評価した。アラスカ内陸部の黒トウヒ林の火災の直後に、燃えた部分の面積、燃え残ったコケ、損傷を受けたコケの分光反射を測定した。これら分光データは、Terraの中分解能撮像分光放射計 (MODIS) センサーから、アラスカ黒トウヒ林の火災後にこれらの被覆の面積率を見積もるのに用いた。本見積もりの精度評価は、航空機による空中写真判読による面積率との比較により行った。燃えたコケの面積率は、火災中の二酸化炭素放出や火災後の植生回復と関係がある。

キーワード: リモートセンシング, 北方森林, 原野・森林火災

Keywords: Remote sensing, boreal forest, wildfire